

火山都市国際会議の豆知識 その七

火山都市国際会議島原大会事務局 (☎65-5540)

語りたい、伝えたい

昨年十一月十九日、雲仙岳災害記念館は熱気に包まれていました。火山会議一年前のプレイベントとして開催したボースター発表の会場です。

消防や警察、自衛隊、医師会県立島原病院、国土交通省、長崎県や大学などから多くの皆さんがパネルの前で発表を行っていました。取り囲んだ聴衆に対して、災害当時の状況や復興に向けた取り組みなど、熱い思いが語られていました。

当時、現場で直接対応に当たった人たちの熱意に、聞いている人もついつい引き込まれてしまいました。災害は大変なこともありましたが、貴重な体験です。「語りたい、伝えたい」この思いこそが、本市が火山都市国際会議島原大会を開催する原動力です。体験した人は誰でも、何かを語りたい、何かを伝えたいと思っています。国際会議はこのような皆さんにとって絶好の機会です。

次代の新しい風

本市の人口の約二割に当たる二十歳未満の皆さんは、噴火災害についてあまり記憶がないのではないかと思います。しかし、プレイ

松島健博士と行く

世界の火山めぐり (七) インドネシアの活火山

太平洋を取り巻く地震・火山帯の一角にあるインドネシアは、一二九の活火山がひしめく火山列島です。ここでは、インド・オーストラリア・プレートがユーラシア・プレートの下に沈み込む際に多数の大地震を発生させ、融けたマグマが活火山列を形成しています。二〇〇四年十二月に天津波で二十二万人余りの人が犠牲となったスマトラ島沖大地震は皆さんの記憶にも残っていると思います。

火山災害でもインドネシアの火山は凶暴です。一八一五年タンボラ火山噴火、一八八三年クラカタウ火山噴火は人類の歴史に残る大噴火の世界一位と二位となっており、それぞれ九万二千人、三万六千人もの犠牲者を出してしまいました。

スマトラ島にあるトバ湖は、阿蘇カルデラの数倍もある世界一のカルデラです。ジャワ島のメラピ火山は雲仙岳と同様に、火山口から出た溶岩ドームが崩落して、崩落型火砕流が今でも頻発しています。

日本はインドネシアの地震火山防災のために、科学的・経済的に大きな貢献をしています。多くの日本人研究者が観測機材を持って現地に派遣されるとともに、インド

ネシアの若手研究者が続々と日本に勉強に来ています。島原市にも九州大学所属の留学生が来ています。火山都市国際会議でも多数の火山防災関係者の参加が予定されています。

(執筆：松島健九州大学地震火山観測研究センター准教授・理学博士)



↑10分から1時間ごとに噴火を繰り返す
ジャワ島最高峰のスメル火山 (3,676m)